

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
技術科長	河野 栄治
統括主査	中西 潤
技術主査	中谷 暁洋
学術主査	岩本 匡史
主 査	奥田 重之
主 査	爲廣 理沙子
	町田 麻実
	小谷 哲也
	吉田 光海
	佐々木 啓人
	三角 定弘
	中平 大志
	坂元 弘美
	金口 優生
	森田 庸介
	西 祐樹
	甲斐 貴久 <6月入職>
	川崎 勇司 <3月入職>

—概要—

2016年度は昨年度末に急な退職があり、定員より少ない16名体制でスタートし6月より甲斐貴久を迎え、定員の17名体制として業務を行い3月に川崎勇司を非常勤として迎える形となった。

昨年度からの課題である「日当直」「オンコール」を行える人材の育成、業務レベルの向上と業務体制の確立であったが、年度を通し常に長期の病休者が発生している状況であったが、各部署の理解、スタッフ間の協力により通常業務・当直・オンコール、緊急業務など滞ることなく行うことができた。

ただし、長期病休者が発生することで、日々の業務が潤沢に運営できる状況でない日々が続いた。

また、本年度より『血液浄化業務』『心臓関連業務』『呼吸関連業務』『集中治療関連業務』『機器関連業務』とチーム分けを行い、当直業務と言う業務範囲の広い面の業務から、それを保ちつつ、専門性を求める試みを始めた年度でもあった。

【循環器関連業務】において体外循環技術認定士が臨床工学科において4名と言う過去最高の確保を達成した年であった。また、以外のスタッフも体外循環技術認定士を目指しており、また【不整脈関連業務】も遠隔モニタリングを始め拡充が進んだ年でもあった。【呼吸関連業務】においてはラウンド業務の強化をはかり、月に10回以上を心がけ施行した。また、終夜睡眠ポリグラフィーPSG (Poly Somno Graphy) 検査においては検査科と合同で出来る体制を構

築した。【血液浄化関連業務】チーム編成的に2名と言う最少人数であったが、積極的に透析装置のメンテナンスを行う事が出来、またフットケアにおいてもデータベースを構築していくことが出来た。また、腹水濾過濃縮再静注CART (Cell-free and Concentrated Ascites Reinfusion Therapy) 末梢血幹細胞採取PBSCH (Peripheral Blood Stem Cell Harvest)も昨年と比べ増加した年度でもあった。また、災害時における透析医療におい地域連携に注力した一年でもあった。【機器管理業務】においてポンプ類の老朽化が顕著であり、不足分を補う貸し出しポンプも長期貸出が目立つ状況であった。それも有り今年度はポンプのラウンドにも力を入れた。また、修理点検件数も昨年より100件以上多い状況であった。臨床工学としては、全スタッフで出来るだけ処理の迅速化をはかった。

<取得認定資格>

資 格	人数
体外循環技術認定士	4名
3学会合同呼吸療法認定士	10名
CPAP療法士認定	1名
不整脈治療専門工学技士	1名
心血管インターベンション技師 (ITE) 認定	4名
CDR (PM/ICD関連情報担当者) 認定	1名
透析技術認定士	10名
アフレーシス技術認定士	1名
臨床ME専門認定士	4名
医療機器情報コミュニケーターMDIC認定	2名

—実績—

血液浄化関連業務 (救命センター含む)

血液浄化センター血液透析施行回数	2,123件
ICU/CCU血液浄化件数(持続血液器濾過透析含む)	779件
特殊血液浄化(血漿交換・血液吸着療法など)	8件
エンドキシン吸着療法	5件
腹水濃縮再静注法	14件
末梢血幹細胞採取 / 骨髄濃縮	6回/2回

体外循環関連業務 (救命センター含む) / 手術室関連業務

全体体外循環症例	73症例 (うち緊急/準緊急症例22例)
通常体外循環法	53症例
脳分離体外循環法	18症例
超低体温循環停止法	2症例
Off pump CABG	2症例
EVAR (Endovascular aneurysm repair)	18症例
TEVAR (Thoracic endovascular aortic repair)	10症例
自己血回収業務 (体外循環業務及び準備のみに付随するものを除く)	26例

手術室関連業務

ラジオ波焼灼療法	全13症例
乳腺腫瘍	7例
肝臓腫瘍	5例
自己血回収装置準備(整形外科関連)	93例

補助循環関連

経皮的心肺補助症例	42例
大動脈バルーンパンピング症例	31例

心臓カテーテル検査関連

循環器カテーテル検査	1,074症例
冠動脈造影	1,045症例
経皮的冠動脈形成術	412症例
緊急カテ症例	224症例
EPS (Electrophysiological study)	48例

不整脈デバイス関連業務

ペースメーカ新規埋め込み術	37症例
ペースメーカ本体交換術	14症例
埋め込み型除細動器埋め込み術	5症例
埋め込み型除細動器交換術	1症例
両心室ペースメーカ埋め込み術	1症例
両心室ペースメーカ交換術	2症例
両室ペーシング機能付き埋め込み型除細動器埋め込み術	0症例
遠隔ホームモニタリングシステム導入、実施症例	25症例
ペースメーカ等デバイスチェック(術中・術後・外来・遠隔)	1,429回

人工呼吸器・麻酔器関連業務

内ラウンド回数	130回
RCT (Respiratory Care Team) 関連 患者依頼件数	17件
人工呼吸器離脱件数	11件

睡眠時無呼吸治療関連

簡易PSG (Poly SomnoGraphy) 検査	38件
終夜経皮的動脈血酸素飽和度測定	0件
終夜睡眠ポリグラフィー (PSG検査)	46件
CPAP外来	591件
CPAP導入	33件
CPAP ドロップアウト件数	11件
CPAP 転院件数	9件
HOT (Home Oxygen Therapy) 導入	1件

呼吸関連勉強会

病棟勉強会	8回
-------	----

機器管理業務

登録機器	174件
修理依頼/点検件数	1,304件
医療機器貸出件数	723件
ポンプ使用状況確認ラウンド	64回

—今年度の成果と反省点—

全体として従来の業務は概ね昨年同様の件数で推移している。年度において目標にした科内の学習会を定期的に行いながら若手スタッフの育成が出来来年度に繋がる手応えが有った年であった。PSG業務が他部署との協力で充実した業務に発展しつつあり、今後に繋がる業務といえる。反省点としては、チーム制にした事により、チーム以外の業務への積極性が希薄になったと感じられる場面もあった。

—来年度への抱負—

若手スタッフが当直を行える体制が整う年であり、ベテランスタッフの新たなる飛躍が期待できる年度になればと思う。